

所属・資格 地理学科・教授

申請者氏名 関根 智子

研究課題		生活関連施設への近接性からみた空間的公平性に関する地理学的研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	地理情報システム (GIS) の普及により、データの集計の空間単位がマイクロ化しており、それらのデータを使用した生活関連施設への近接性の測定結果にも変化が生じると考えられる。そこで本研究では、国勢調査の 125m メッシュを使用して生活関連施設への近接性を測定し、町丁目・字レベルや 500mメッシュの測定結果と比較し、その相違や空間単位がマイクロになることで明らかになる点などを考察する。また、施設ごとに測定した近接性を総合化する方法についても研究し、さらに、施設への近接性から地域の空間的公平性も明らかにしていきたいと考えた。
	研究の 結果	分析で使用するデータの提供開始により、申請書に記載していた 250m ではなく 125m メッシュを使用して分析を進めた。GIS で各メッシュの中心点を生成し、そこから生活関連施設への近接性を測定した結果、125m メッシュでは、地域の詳細な近接性を捉えることが可能となり、125m メッシュよりマクロな空間単位である区や町丁目のデータの内部の地域的変動を示すこともできた。しかし、125m メッシュデータをマクロな空間単位に集計して、マクロな空間単位で測定した結果と比較すると、大きく異なる結果を示す場合があることも示された。
	研究の 考察・ 反省	125m メッシュデータの利用は、近接性の状態を詳細に記述する点では優れている。しかし、データ量の関係で分析に時間がかかることが難点であり、今後、それを解決することが必要であると思われる。 データの提供開始時期の関係で 2020 年国勢調査の 125mメッシュデータの購入が遅れたことや、分析に時間がかかったことなどにより、近接性の測定結果を総合化する方法や近接性からみた空間的公平性に関することまで研究が進まず、また、研究成果物としてまとめられなかったことが反省点である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表、研究成果物とともに、上記に記載した理由により現時点ではなし。	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	ただし、 8 分の 1 地域メッシュによる人口変化の空間変動の分析：2015 年から 2020 年の東京都の事例 日本大学文理学部情報科学研究所年次研究報告書、25 号、2025 年 3 月発行において、1 ページから 2 ページ目にかけての人口分布の実体、空間サンプリング、空間データに関する記載の一部は、本研究での成果による。	